

道徳の時間にするこゝ……

道徳の時間は、道徳的価値の自覚を深める時間です。道徳的価値の自覚を深めるとは、次のようなことです。

① 道徳的価値について理解する。

(資料の中の主人公や友達の考えとの出会いを通して)

「こういうことって大切なことなんだな。」「このような生き方があるのか。」「このような考え方でとてもいいなあ。」「いろいろな考え方があるんだな。」

② 自分とのかかわりで道徳的価値をとらえる。

(資料の中の主人公や友達の考えと自分の考えとを比べることを通して)

「自分はどうか。」「自分にもこのようないいところがあるぞ。」「自分はこのような考え方だ。」「こういう考え方は、自分にはない考え方だ。」

③ 道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題をもつ。

(新たに見えてきた自分との出会いを通して)

「このような考え方を自分もできるといいなあ。」「このような生き方をしてみたい。」「自分のこのような考え方や生き方を大切にしていこう。」

・高等学校における道徳教育

一方、高等学校には、道徳の時間はないが、「考え合うことによって進められる道徳教育」に当たるものとして、ホームルーム活動等の時間がある。生徒が自己の在り方生き方について仲間や教員と共にじっくりと考え合い、人間としての在り方を自覚し、よりよい生き方を求めていこうとする態度を養うことのできる機会を大切にしたい。

4 道徳教育の充実に向けて

・道徳教育の充実

道徳教育を充実するために、次のようなことを大切にすることが求められている。

ア 体験活動等を生かした心に響く道徳教育の充実

イ 家庭や地域の人々の協力による開かれた道徳教育の充実

ウ 未来へ向けて自らが課題に取り組み、共に考える道徳教育の推進

そのための具体的な工夫として、次のようなことを考えたい。

・豊かな体験や体験活動

① 豊かな体験や体験活動を通して心を育てること

子どもたちは、日常の生活や学校の全教育活動の中で様々な「体験」をしている。また、学校は、様々な「体験活動」を意図的、計画的に実施している。道徳教育を進めるに当たっては、子どもたちがどのような体験や体験活動をしているのかをしっかりと把握し、より豊かな体験活動を計画したり、道徳の時間の中で生かす方法を考えたりすることが大切である。その際、次のような工夫が考えられる。

○ 道徳の指導内容を窓口にしなが、それぞれの体験や体験活動によって、どのような道徳的価値にかかわる心の育ちがあるのかを把握する。

○ 道徳の時間のねらいの設定や資料の選定、導入・展開・終末の展開の中で、体験や体験活動を生かす。例えば、体験したことを思い出させることで、資料の登場人物への共感を深めさせるなど。

・体験活動と道徳の時間

なお、体験活動を道徳の時間に生かす場合、道徳の時間が、体験活動のまとめの時間になってしまうことのないように十分注意したい。道徳の時間に深めようとしている道徳的価値の自覚は、ある体験活動の特定の場面での自覚にとどまるものであってはならない。むしろ、体験活動の中で深められる道徳的価値の自覚が、道徳の時間での話合いや思考によって、更に広げられ、深められることが期待される。

・道徳の時間

② 道徳の時間を確保すること

道徳教育の中で、道徳の時間は「かなめの時間」として重要な役割をもっている。道徳教育の充実のためには、小・中学校の週1時間の道徳の時間の確保は、とても重要である。また、高等学校においても、ホームルーム活動などを中心に、人間としての在り方生き方について考える学習を意図的・計画的に行うことが大切である。

・ホームルーム活動

そのためにも、道徳教育の全体計画や年間指導計画をしっかりとつくり、毎年、全教職員でそれらを見直しながらよりよいものに改善していくことが大切である。

・全体計画と年間指導計画

週に1時間しかない道徳の時間やホームルーム活動の時間である。しっかりと見直しをもって指導ができるようにしたい。

・魅力的な道徳の時間の工夫

③ 道徳の時間が魅力的なものになるよう、様々な工夫をすること

「道徳の時間は、様々な意見や考え方を知ることができる。」「道徳の時間は、発言したことに対して正解・不正解がない。」などが、子どもたちが道徳の時間を好きになったり、楽しみにしたりする理由である。そのような魅力ある道徳の時間にしていくことが、大切である。

そのためにも、次のような工夫を考えたい。

- 教員は、子どもと共に考え合う姿勢を大切にすること。
- 魅力ある教材の選択に努め、様々な教材を効果的に使って授業を進めること。
- 体験的活動を取り入れ、ねらいを深めることができるようにすること。
- 「心のノート」や道徳ノートを使い、一人一人の心の育ちを子ども自身が自覚できるようにするとともに、指導者もその把握に努めること。

・信頼関係、人間関係

④ 子どもとの信頼関係の確保や子ども同士の人間関係づくりに努めること

道徳の時間をはじめ道徳教育においては、一定の考え方を押し付けるものであってはならない。子どもたちと教員が共に考え合い、意見を交わし合う中で、よりよい生き方を探り合うのが道徳教育である。それは、互いの信頼関係や人間関係によるところが大きい。普段の学級経営や子ども理解に努めることによって、信頼関係や人間関係を深めるようにしたい。

なお、信頼関係や人間関係は、道徳の時間を大切にすることによって深まることも十分あり得る。道徳の時間や道徳教育を大切にしたことによって、生徒指導が充実したという報告が多くあるのも、この点によるところが大きいのではないだろうか。

・協力的な指導

⑤ 学校の教職員が協力して道徳教育を進めること

道徳の時間は、主として学級担任によって進められるが、全教育活動の中で行われる道徳教育は、学校の全教職員によって進められるものである。さらに、道徳の

時間であっても、その計画は全教職員で進めていくことが大切であり、また、道徳の時間に担任以外の教職員が参加することで、道徳の時間をより充実させることができる。

担任だけに任せていたり、道徳の担当教員だけで計画づくりが進められたりしてはいないだろうか。

子どもたちは、大人の後ろ姿をよく見ているものである。学校の全教職員で道徳教育の大切さを認識し、意見を交わしながら進めている姿は、子どもたちにとって道徳教育そのものであることを、今一度、確認したい。

・家庭、地域との連携

⑥ 家庭や地域の協力も得て、子どもの心の育ちをみんなで見守ること

日々の生活の中には、心を育てることのできる機会がたくさんある。そのような機会を大切にし、子どもたちと語り合いながら心を育てていきたい。

そのためには、まず、家庭や地域においても、子どもの心を育てる様々な機会を意図的・計画的に設けていただくことが大切である。また、学校が進める道徳教育に対して、家庭や地域の理解と協力を得ることも大切なことである。

・道徳の公開授業

学校は、様々な機会を利用して、道徳教育に対する理解と協力を、家庭や地域の人々に求めている。最近では、授業参観で家庭や地域の人々に道徳の授業を公開し、子どもたちの心の育ちについて共に考え合う学校が増えている。道徳の公開授業は是非、取り組みたい活動の一つである。

「心のノート」……

文部科学省は、「心のノート」を作成し、平成14年に全国の小・中学生に配布しました。

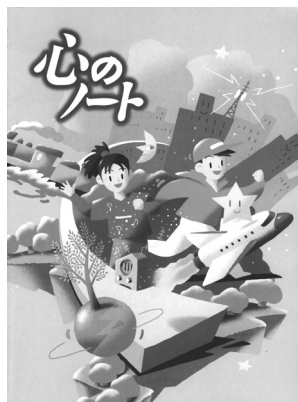
「心のノート」は、児童生徒が身に付ける道徳の内容を、児童生徒にとって分かりやすく書き表し、道徳的価値について自ら考えるきっかけとなるものとして作成されました。学校の教育活動全体や家庭において活用されることを通して、道徳教育の一層の充実を図り、児童生徒の「豊かな心」をはぐくもうとするものです。

○ 「心のノート」の種類

「心のノート」は、小学校低学年用、中学年用、高学年用、中学校用の4種類からなります。



〈小学校低学年用〉



〈小学校中学年用〉



〈小学校高学年用〉



〈中学校用〉

○ 「心のノート」の性格

「心のノート」は、児童生徒にとって自学自習用の性格をもったものです。主たる教材としての教科書や中心的な資料として活用される副読本などに代わるものではありません。つまり、道徳の時間における「心のノート」は、道徳の時間に、「心のノート」のみを使用して授業を展開するのではなく、むしろ、指導過程の中で補助的に活用したり、授業の事前・事後に関連付けて活用したりすることによって、ねらいとする道徳的価値や中心的な資料としての副読本などの内容についての理解を助けることができる冊子となるのです。

○ 「心のノート」の活用を広げるための取組例

□ 学校としての用い方の方針を決め、全教職員で共通理解を図りましょう。

- 各担任や担当等の創意工夫が活かせるようにする。
- 学校としての用い方に一貫性をもたせ、学年・学級間のバランスをとる。全体計画や年間指導計画に位置付けながら柔軟に用いる。

□ 子どもの活用のためのオリエンテーション的な機会をもちましょう。

- 学級や子どもの実態に応じて「心のノート」との出会いの時間を柔軟に考えて設定する。

□ 子どもの思いや子ども一人一人の事情等への配慮をしましょう。

- 子ども一人一人への配慮をしながら、「心のノート」を介して心の対話などが深められるようにする。

□ 子ども一人一人で異なる個性的なノートになるように援助しましょう。

- 自由に書き込む機会を充実させることにより、個性的なノートになるようにする。

